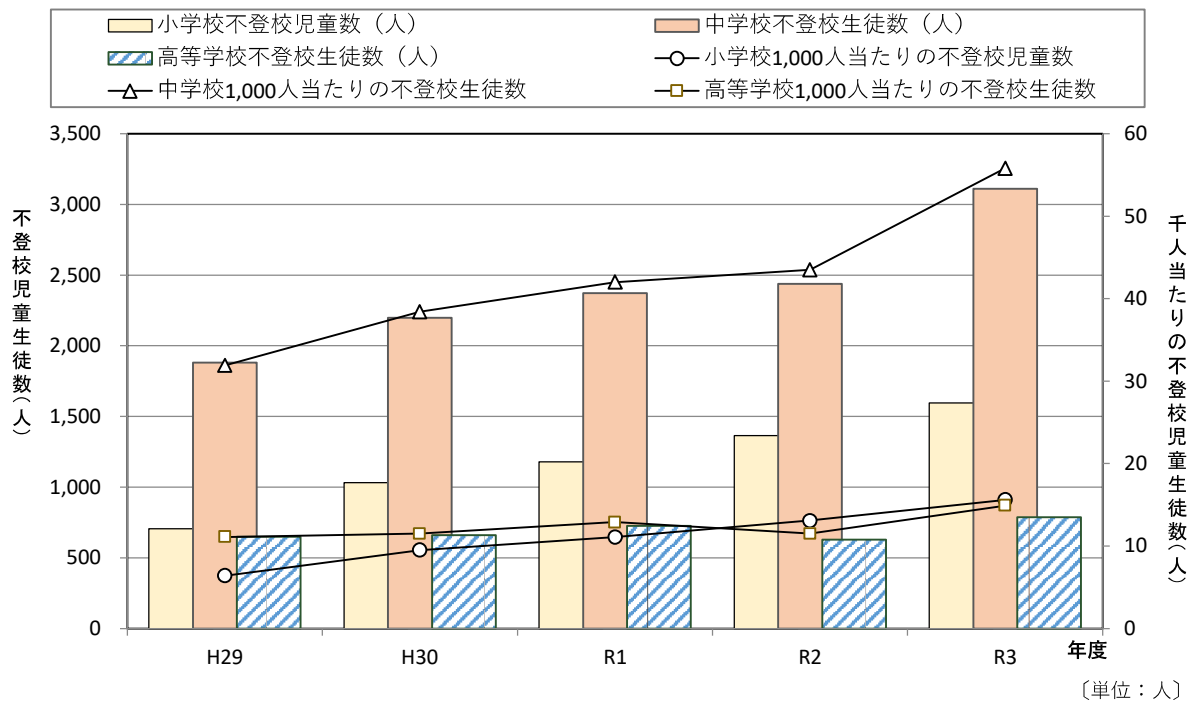


- 小・中学校における不登校児童生徒数は、4,707人（前年度3,802人）であり、前年度から905人（23.8%）増加した。1,000人当たりの不登校児童生徒数は29.8人（前年度23.7人）で、全国と同様に過去最多となっている。
- 高等学校における不登校生徒数は、787人（前年度628人）であり、前年度から159人（25.3%）増加している。1,000人当たりの不登校生徒数は14.9人（前年度11.5人）であり、全国と同様の傾向である。
- 不登校児童生徒数が増加した背景として、休養の必要性等の浸透や、生活環境の変化により生活リズムが乱れやすい状況、制限のある中で交友関係を築くことなど、登校する意欲が湧きにくい状況があったこと等も背景として考えられる。

1 不登校児童生徒数及び1,000人当たりの不登校児童生徒数の推移



年度		H29	H30	R1	R2	R3	
小学校	不登校児童数	706	1,032	1,178	1,365	1,596	
	前年度増減	176	326	146	187	231	
	1,000人当たりの不登校児童数	県	6.4	9.5	11.1	13.1	15.6
		全国	5.4	7.0	8.3	10.0	13.0
中学校	不登校生徒数	1,881	2,197	2,373	2,437	3,111	
	前年度増減	192	316	176	64	674	
	1,000人当たりの不登校生徒数	県	31.9	38.4	42.0	43.5	55.8
		全国	32.5	36.5	39.4	40.9	50.0
小中合計	不登校児童生徒数	2,587	3,229	3,551	3,802	4,707	
	前年度増減	368	642	322	251	905	
	1,000人当たりの不登校児童生徒数	県	15.3	19.5	21.8	23.7	29.8
		全国	14.7	16.9	18.8	20.5	25.7
高等学校	不登校生徒数	648	660	726	628	787	
	前年度増減	▲39	12	66	▲98	159	
	1,000人当たりの不登校生徒数	県	11.1	11.5	12.9	11.5	14.9
		全国	15.1	16.3	15.8	13.9	16.9

（注）調査対象校：県内国公私立・小中高等学校（通信制含まない）672校

2 90日以上欠席している不登校児童生徒及び欠席日数別構成比

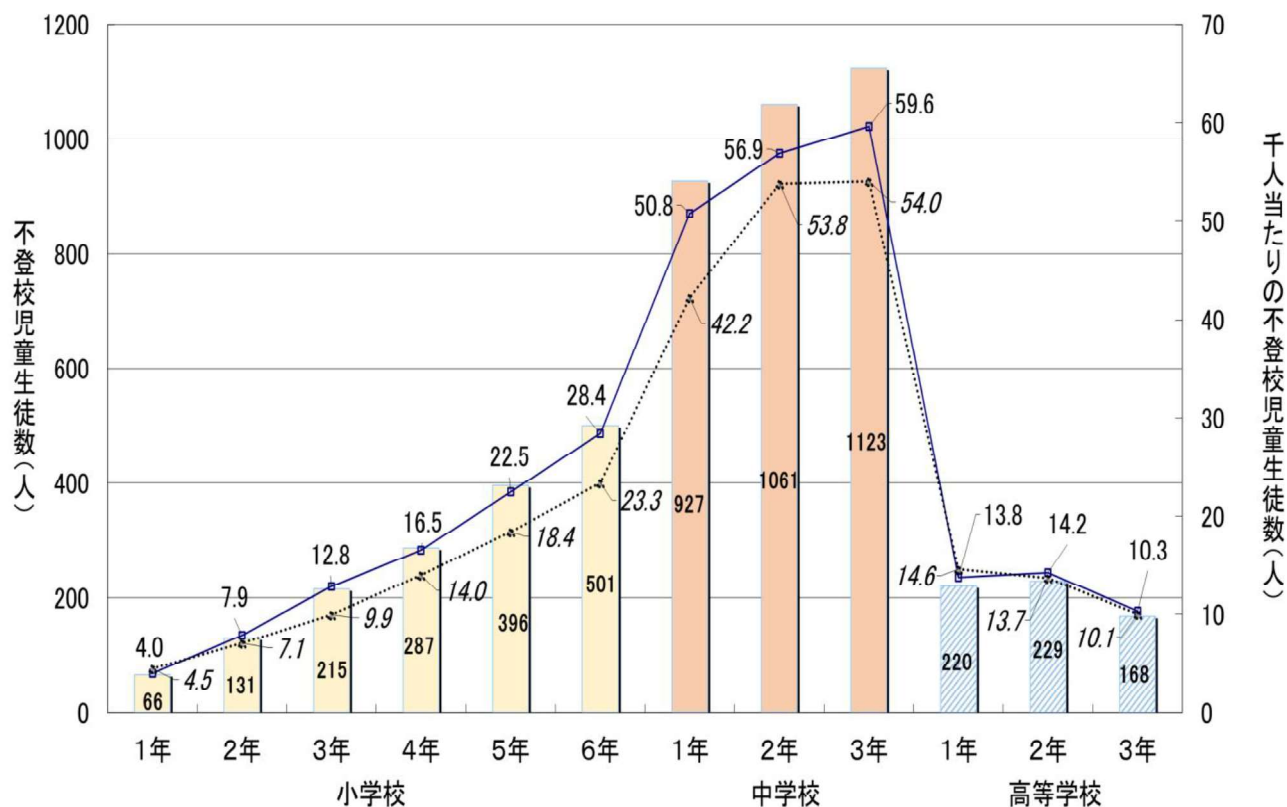
〔単位：人、％〕

欠席・出席日数 校種		不登校(D)	A うち、90日以上欠席している者		
			B うち、出席日数が10日以下の者		C うち、出席日数が0日の者
小学校	県人数	1,596人	655人	113人	33人
	県割合		41.0%	7.1%	2.1%
	全国割合		44.2%	7.9%	2.9%
中学校	県人数	3,111人	1,700人	250人	74人
	県割合		54.6%	8.0%	2.4%
	全国割合		60.4%	13.0%	3.8%
小中合計	県人数	4,707人	2,355人	363人	107人
	県割合		50.0%	7.7%	2.3%
	全国割合		55.0%	11.3%	3.5%

(注)割合(%)は、不登校(D)に対するA～Cの割合。[A/D(%)、B/D(%)、C/D(%)]

3 学年別不登校児童生徒数

■ 不登校児童生徒数 ◆ 千人当たり不登校児童生徒数 長野県 ... 千人当たり不登校児童生徒数 全国



注1) 調査対象：県内国公立小中高等学校 672校 高等学校の4年生、単位制の人数は除く

4 不登校の要因

[単位:人、%]

区分	要因	学校に係る状況							家庭に係る状況				本人に係る状況		左記に該当なし
		いじめ	いじめを除く友人関係をめぐり問題	教職員との関係をめぐり問題	学業の不振	進路に係る不安	部活動等への不適応	クラブ活動・学校のみまり等をめぐり問題	入学・転入学・進級時の不適応	家庭の生活環境の急激な変化	親子の関わり方	家庭内の不和	乱れ・あそび・非行	生活リズムの無気力・不安	
小学校	主たる要因分類別人数	8	149	26	103	6	0	10	51	37	220	24	128	685	149
	要因分類別割合	0.5	9.3	1.6	6.5	0.4	0.0	0.6	3.2	2.3	13.8	1.5	8.0	42.9	9.3
	全国割合	0.3	6.1	1.9	3.2	0.2	0.0	0.7	1.7	3.3	13.2	1.5	13.1	49.7	4.9
中学校	主たる要因分類別人数	2	440	17	320	38	11	22	133	65	251	67	254	1222	269
	要因分類別割合	0.1	14.1	0.5	10.3	1.2	0.4	0.7	4.3	2.1	8.1	2.2	8.2	39.3	8.6
	全国割合(%)	0.2	11.5	0.9	6.2	0.9	0.5	0.7	4.1	2.3	5.5	1.7	11.0	49.7	4.9
高等学校	主たる要因分類別人数	2	101	7	50	35	3	4	31	15	37	11	46	323	122
	要因分類別割合	0.3	12.8	0.9	6.4	4.4	0.4	0.5	3.9	1.9	4.7	1.4	5.8	41.0	15.5
	全国割合	0.2	9.1	0.5	6.2	4.3	0.8	0.8	9.4	1.7	3.4	1.9	14.9	39.2	7.6

(注1) 調査対象校: 県内国公私立小・中・高等学校 672校

(注2) 主たる要因は、不登校児童生徒1人につき1つを選び回答。要因分類別割合は、主たる要因の総数を母数とした構成比

(注3) 全国の要因分類別割合は、文科省「令和3年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」結果の数値

5 不登校児童生徒が学校内外で相談・指導等を受けた状況

[単位:人、%]

年度		H29	H30	R1	R2	R3	
(A) 学校内外の機関で 相談・指導を受けた	県	2,114	2,663	2,727	2,654	3,133	
	割合	81.7	82.5	76.8	69.8	66.6	
	全国	109,935	119,356	127,679	128,833	156,009	
	割合	76.3	72.5	70.4	65.7	63.7	
	(C) 学校内で専門的な 相談・指導を受けた	県	1,371	1,825	1,903	1,831	2,114
		割合	53.0	56.5	53.6	48.2	44.9
		全国	72,183	79,621	85,869	92,626	110,908
		割合	50.1	48.4	47.4	47.2	45.3
(D) 学校外の機関で 相談・指導を受けた	県	687	970	1,203	1,547	1,951	
	割合	26.6	30.0	33.9	40.7	41.4	
	全国	43,336	56,090	64,877	73,527	88,322	
	割合	30.1	34.1	35.8	37.5	36.1	
(B) 学校内外で 相談・指導を受けていない	県	473	566	824	1,148	1,574	
	割合	18.3	17.5	23.2	30.2	33.4	
	全国	34,096	45,172	53,593	67,294	88,931	
	割合	23.7	27.5	29.6	34.3	36.3	

(注1) (A)+(B)=不登校児童生徒数

(注2) (C)+(D)は、学校内外の複数で相談・指導等を受けた児童生徒がいるため、(A)とは一致しない。

(注3) 「割合」は、不登校児童生徒に占める割合(%)

(注4) (C)「専門的な相談・指導」は、養護教諭・スクールカウンセラー・相談員等によるもの。

6 自宅におけるICT等を活用した学習活動を指導要録上出席扱いとした児童生徒数

[単位：人]

校種		年度				
		H29	H30	R1	R2	R3
県	小学校	0	0	4	10	69
	中学校	0	0	8	43	98
全国	小学校	36	88	174	820	4,752
	中学校	113	198	434	1,806	6,789

(注)「不登校児童生徒への支援の在り方について」(文部科学省通知)に基づいた指導要録上出席扱いとした児童生徒数の実人数。

※ ICT等を活用した学習活動(例)

- ・民間業者が提供するIT教材を活用した学習
- ・パソコンで個別学習できるシステムを活用した学習
- ・教育支援センター作成のIT教材を活用した学習
- ・学校のプリントや通信教育を活用した学習
- ・ICT機器を活用し、在籍校の授業を自宅に配信して行う学習(同時双方向型授業配信やオンデマンド型授業配信)
- ・インターネットのほか、郵送や電子メール、FAXなどを活用して提供されるものも含まれる。

(参考)長期欠席児童生徒数

[単位：人]

年 度		H29	H30	R1	R2	R3
小学校	長期欠席児童数	1,378	1,645	1,805	2,153	3,222
	病気	274	276	262	248	253
	経済的理由	0	0	0	0	0
	不登校	706	1,032	1,178	1,365	1,596
	新型コロナウイルス感染回避	-	-	-	246	356
その他	398	337	365	294	1,017	
中学校	長期欠席児童数	2,678	2,783	2,966	3,171	4,552
	病気	483	439	418	409	437
	経済的理由	0	0	0	0	0
	不登校	1,881	2,197	2,373	2,437	3,111
	新型コロナウイルス感染回避	-	-	-	141	211
その他	314	147	175	184	793	
高等学校	長期欠席児童数	1,093	1,107	1,189	1,159	2,227
	病気	238	253	268	223	384
	経済的理由	6	2	2	9	2
	不登校	648	660	726	628	787
	新型コロナウイルス感染回避	-	-	-	182	319
その他	201	192	193	117	735	

(注1) 調査対象校：県内国公私立小・中・高等学校 672校

(注2) 長期欠席者の定義…年度間に連続又は断続して30日以上欠席した児童生徒。

- ・「新型コロナウイルス感染回避」：新型コロナウイルスの感染を回避するため、本人又は保護者の意思で出席しない者、及び医療的ケア児や基礎疾患児で登校すべきでない」と校長が判断した者。

(注3) 長期欠席の定義の変更点(令和2年度調査～)：「新型コロナウイルスの感染回避」を新たに設定。

- ・「児童生徒指導要録」の「欠席日数」のみではなく、「欠席日数」と「出席停止・忌引き等の日数」の合計が30日以上であることを長期欠席と定義。また、欠席理由の区分は、これまでの「病気」「経済的理由」「不登校」「その他」の4項目に加え、「新型コロナウイルスの感染回避」を新たに設定。これらの変更は、これまでの調査における長期欠席の理由である「病気」「経済的理由」「不登校」について、できる限り従来と同じ定義で過去の数値と比較可能な形で把握するための対応となっている。